



国際化の最前線から



「在外教育施設」を活用した自治体の国際化推進② —JET 卒業生の活躍—

(公財)海外子女教育振興財団理事長 綿引 宏行

海外子女教育振興財団 (JOES) は世界中で学ぶ日本人の子どもたち約 20 万人を熱く応援しています。また、世界中に在外教育施設は、日本人学校は世界 49 カ国・1 地域に 94 校、おもに土曜日に開校する補習授業校は 55 カ国に 224 校あり、およそ 6,500 人の先生方が日々子どもたちと正面から向き合ってくれています。

2022 年 6 月に成立した「在外教育施設における教育の振興に関する法律」に謳われた理念を実現すべく、一層のグローバル人材の育成に取り組むべく学校・教員・保護者・子どもたち・現地日本人社会の方々などと連携強化を進めていく所存です。

私は、政府が目指す次世代の「世界で貢献できる日本人」を育成する鍵は「多様性溢れる学習環境の提供」にあると確信しています。在外教育施設に多様性をもたらしてくれるのが、「JET Alumni Association (JET 同窓会) との連携」です。在外教育施設における現地採用教員として JET の卒業生に教壇に立ってもらい取り組みですが、これを目指して 2022 年 9 月 1 日にクリアと私共 JOES は包括連携協定を締結しました。JET プログラムによって「日本の良さ」を知り、母国に戻った JET 卒業生が現地理解教育を中心に日本の子どもたちの育成に向き合う、そして在外教育施設に派遣された教師の皆さんと教育を通して大いに交流を深めていく。こうしたサイクルが動き始め、「内なるグローバル化」と「外側のグローバル化」が同時に実現されていければこれほどの成長力はないと考えます。

先月号では在外教育施設の日本人教師にスポットを当てました。今月号では「在外教育施設で活躍する JET 卒業生」を紹介します。

プロフィール

綿引 宏行 (わたびき ひろゆき)
1957 年、東京生まれ。旧東京海上火災保険(株) (現・東京海上日動火災保険(株)) に入社。米国東京海上社長時代は NY 教育審議会副会長も務めた。常務取締役退任後、東京海上日動 HRA 社長として人材育成・組織開発に取り組む。2020 年から現職。

JET 卒業生、

シカゴ日本人学校 (アメリカ) で活躍中!

■キム・ハーバード (2006 年～勤務/元千葉県 ALT)

私は英語科副主任とグローバル教育チーム員であるほか、イリノイ州日本語教師会の副会長も務めています。日本語学習コミュニティを幅広くサポートしていますが、「文化は言語を学ぶ上で重要な要素である」と信じています。

外国語指導助手 (ALT) として勤務中、アメリカの文化、特にアメリカ国内の多様性について教えることに最もやりがいを感じていました。

JET の任期を終えたあとはシカゴに戻り、公立の小・中学校に勤めました。その間、子どもたちやその保護者、同僚たちに日本での経験を伝えるようにしましたが、アジアについてよく知らない人も少なくありませんでした。



授業風景

「日本はどこですか」「どこでも着物を着ているのですか」「私たちがマクドナルドで食べるようにお寿司を食べるのですか」……私は人々の世界観を広げ（時には挑戦し）、新しい可能性に触れてもらうことを楽しみました。

私はJET同窓会のメンバーで、年間を通じてさまざまなイベントを開催しています。新しいJET参加者のためのワークショップ、会議、さまざまな同窓会活動などのイベントでボランティアをしています。シカゴ日本人学校の英語教師の募集を知ったのもJET同窓会を通じてでした。

シカゴ日本人学校では地元との交流や校外学習、講演会などを通して、グローバル教育が盛んに行われています。子どもたちは大変意欲的で、保護者の皆さんの教育熱も高くとても協力的です。

コミュニケーションは完璧である必要はなく、伝わったメッセージが受け取ったメッセージとなります。好奇心、オープンハート、冒険心を持って行動すれば、どこでも学ぶことができると信じています。



授業風景

■マリア・マーチ（2016年～勤務／元兵庫県ALT）

私は幼児および小・中学生に英語を教えているほか、翻訳や校外学習の付き添い、現地校との交流企画も行っています。英語の指導ではコミュニケーション能力に重点を置き、アメリカの伝統や考え方の違いのほ

か、時事問題などについても議論することで、子どもたちが「地球市民」になるのに必要なスキルを身につけることができると思っています。

JETでの経験は生徒指導だけでなく、日本の環境で働く上で非常に役に立ちました。日本で生活したことで、文化や言語、伝統の異なる国に移住する子どもの気持ちをより理解し、共感できるようになりました。

また、JET期間中、多くの先生方と接したことでさまざまな教授法や哲学を知ることができ、努力すればするほど周囲や自分自身にもポジティブな変化を感じることができました。

出会った素晴らしい人たちと多くの強い友情を築き、今でも連絡を取り合っています。このような経験から私は、世界に平和と理解を広めるためには「文化交流」が不可欠であると痛感しています。

「日本人学校」や「JET」は、明るい未来に向けて国際的な隔たりを越えて働くことのできるグローバル市民を創り出していると確信します。

そしてJETが文化交流を可能にし、両国の絆を深め、帰国後も地域社会に日本への好意を広める「文化大使」を輩出し続けることを願っています。



授業風景



授業風景